

グループ討論のまとめ（テーマ：ベッドからの転落）

参加者 医療従事者：16名
高齢者施設：1名
研究者：9名

行政：1名
建築関係：6名
出版/マス：3名

セミナー：5名
ベッドメーカー：16名

グループ (数字は人数)				キーワード	対 策 内 容 (ベッドからの転落)	    					理 由 (なぜ有効なのか)	課題/問題点
A	B	C	D									
15	15	13	14									
			●	柵	エアマット使用時、柵の高さを十分認識する。	14票		●			床高が通常より高くなっている為。	・高い柵が必要
		●		柵	患者によっては柵は要らない	13票					柵の乗り越えによる転落や、柵を外そうとして転落することを防げる。	・患者を識別しなければならない
			●	柵	家庭的な雰囲気を出す為、木製柵、コルクを使用する。	10票	●				家庭的な雰囲気の為、精神が安定する。	・柵が固く、打撲の原因となる
●				柵	サイドレールを使い分ける	8票	○	○	●		差す向き等によっても隙間を抑える事ができる	・数種類の用意が必要になってくる
			●	柵	簡易的に柵を固定する。	7票				○	故意に取り外しをする患者には有効。	・看護師が取り外し難い
			●	柵	柵にカバーを取付ける。	7票			○			
		●		柵	サイドレールのバリエーションがもっと欲しい						患者によって種類を選べる。	
	●			柵	サイドレールを高くする	0票	○					・柵の乗り越え転落時のリスクが大きい ・患者や家族への協力依頼/説明の問題あり
		●		柵 センサ	サイドレールに鈴（センサー）を付ける。	13票	●		○	○	サイドレールを触ることで直ぐに動作を感知できる。	・鈴は他の患者に迷惑
			●	低床	低床ベッドを使用し、ハイローをこまめに調節し、転倒を最小限度に止める。	14票	●					・安全な立ち上がりポイントを設定できるように製品開発を行う
●				低床	低床ベッドを使用	9票	●	●	○	○	万が一転落しても衝撃を抑える事ができる	・衝撃吸収マットの併用も必要になる
		●		低床	ベッドの高さを最低位置にする。						転倒時の衝撃を吸収できる。	
		●		低床	ベッドのハイロー機能使いやすさ下ろし忘れに注意		○	○	○	○	ベッドを高くしたまま離れると危険。	
		●		低床 柵	低床ベッドにし、サイドレールを使用しない。（低い柵・一部空けておく）	13票	●	●		●	サイドレールを乗り越えたと危険性は変わらない。下りられる場所を決めてしまう。	・看護師の負担が大きい ・周辺家具の高さの問題
	●			低床 緩和 柵 M	頭側にはサイドレール、足側にはサイドサポート+低床ベッド+衝撃緩和マット	13票	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	転落時の被害を最小限におさえられる、落ちる場所への誘導	
	●			低床 緩和 柵 M S	低床ベッド+サイドサポート+衝撃緩和マットの使用	11票	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	○ (被害最小限)	転落時の被害を最小限におさえられる	・返戻りした時に転落のリスクあり
	●			センサ	患者の行動を考えた離床センサーの効果的な使用	13票	○	○	○	○	転落の危険性を迅速に知ることができる。 報知先はPNS。	・費用/振替の問題あり ・患者様がセンサを外すこともある
		●		センサ	離床センサーを使用	13票	●	●	●	●	○	患者の初期動作で感知できる。 ・感度により頻繁に報知音の区別が難しい ・メッセージの入れ忘れ
●				センサ	センサー等を使用	5票	○	○	○			目の届いていない状態でも離床が分かる
			●	センサ 柵	片側に2本柵を使用し、隙間部分に逃げ道を作り、ベッドセンサーをおく。	14票			●		最小限度の転落に抑えられる。	
		●		緩和 柵 M	衝撃緩和マットを敷く	13票	●	●	○		どうしても対策を打てない患者に有効。	
●				マット	マットレスを使い分ける	5票					例えば薄いマットレスを使用するとサイドレールの有効高が増す	・乗り越えた場合は衝撃が増える
			●	評価	アセスメントシートの有効利用。	14票		●			個々の状況把握ができる。	・確立したフォアマットがない
	●			評価	アセスメントシートによるチェック	13票	○	○	○	○	事前に転落の危険度がわかる	
		●		評価	環境の変化を考慮しアセスメント	13票					柵の目的を理解して貰える。	
		●		観察	カメラでモニターする	10票	●	●	●	●	●	患者の本当の状況が分かる。 ・プライバシーの問題 ・離床時の併用
●				観察	観察強化	8票					看護側の意識レベルが上がリ、転落などを未然に防ぐ事が出来る。	・頻繁に観察する意識をつける
	●			観察	観察室・ナースステーションでの観察（目が届く場所での観察）	8票	○	○	○	○	常時目が届く	
		●		配置	ベッドから手の届く所に物を置かない。など置き方の検討	13票					物を取ろうとして転落することを防げる。	・物を置かない所に置く、届き易いところに置くかが問題
	●			配置	ベッドの片側を壁につける	3票	○	○	○	○	ベッドから降りることができる場所が限定され、転落箇所が減る。	・片側への対策は同様に必要
		●		幅広	ベッドの幅を広くする。	3票					寝返りがうてる。患者に安心感がある	・看護時に負担が増える
●				備品	周辺備品を工夫する	4票	○	○	○		ベッド上からでも物を取れる様にすれば、降りる必要がなくなり、転落の心配も減る	・仕様変更に伴うコスト問題が出る
		●		床材	床材を検討	13票	●	●	○		床材が変わっただけでも転倒する。衝撃を緩和する素材。表面は固く、心材で吸収できる構造にする。	
			●	照明	就寝時、周囲に影響がない程度の照明をベッド下部に取付ける。	14票	●					
●				一	製造メーカーに改善依頼	6票					各メーカーの商品が何でも使える事が出来れば、色々な組み合わせも考えられる	・各メーカーでの協力体制が必要
			●	一	ワイヤレスリモコンを使用する。また、収納タイプ。							

※ S S … サイドサポート
※ 緩和 M … 衝撃緩和マット